釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の顔

□3□

ドイツ歌曲を歌っている時が一番幸せーと高橋さん

感動的なドイツ歌曲

厳しいレッスンに耐え飛躍

音楽

高橋寿子さん

釧路市南大通三の二

何よりも好きなドイツ歌曲

いくら声がよくても聞いている人を感動させるのはむずかしいと思います。音はからだで作るものということが分かってきて、ますます歌がむずかしくなってきましたーと話す。

何よりも好きというドイツ歌曲(リート)。それも突きつけていけば、ドイツ人の骨格があってはじめて本物になるという。その点、ドイツ在住の声楽家、白井光子さんこそ尊敬する人だともいう。「でも白井先生のようには一生かかってもなれませんわ」と以外と明るい声。目標とはそう簡単に手の届く位置にはないようだ。

小さい時からピアノを習い、将来のピアニストを目指して中学三年生の時に北星学園へ。その女子高等学校音楽科三年生の時に声学の道へ進もうと決心した。

「小学生時代の恩師には、あの子が声楽を!と思いもよらなかったでしょうね」と笑う。

国立音楽大学音楽部声学科を卒業し、帰釧して第十一回釧路新人演奏会に出演、釧路音楽協会特別賞を受賞した。これを一つのバネに六十年には、その年一番すぐれた演奏活動を行った人に釧路音楽協会から贈られる高後賞も受賞した。

ホッター教授の指導、大きな収穫

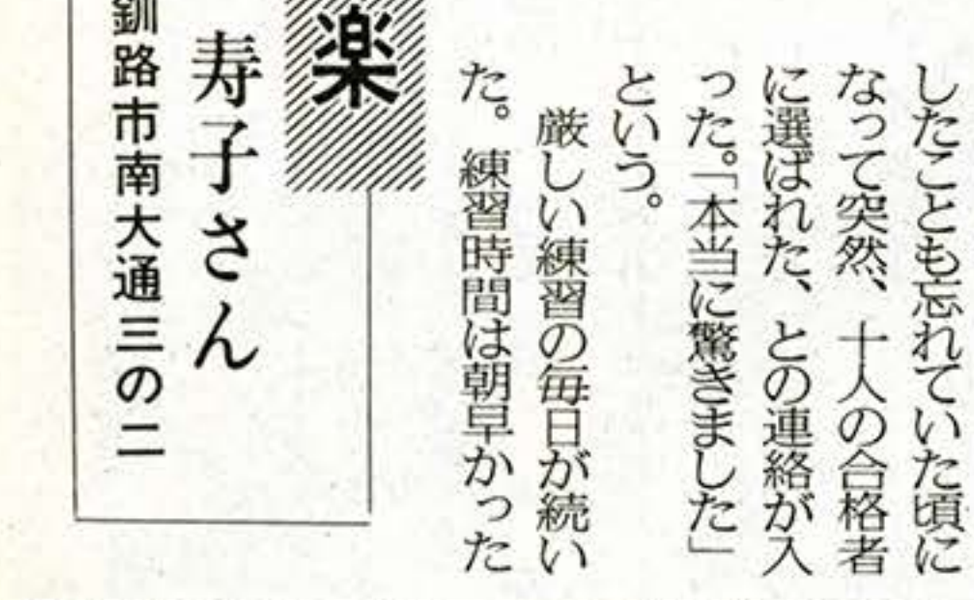
寿子さんにとって最大の飛躍となったのは、世界的にも著名なハンス・ホッター教授の指導を受けたこと。ドイツ歌曲特別マスタークラス参加者のオーディションがあり、一次のテープ審査に自らの実力をはかるため応募した。その応募したことも忘れていた頃になって突然、十人の合格者に選ばれた、との連絡が入った。「本当に驚きました」という。

厳しい練習の毎日が続いた。練習時間は朝早かったりマチマチ。「体調を整えて、いつでも声が出せるように心がけました」という。しかし、わずか一小節ができないために三十分も四十分も繰り返しのレッスン。「苦しかったけれども得るものも大きかった。それまで見えなかったやらなければならないことが分かってきた」という。厳しいレッスンに耐えてマスタークラスを修了。翌年もこの十人の中からのピックアップメンバーの一人に選ばれ、ホッター教授の指導を受けた。

ドイツ歌曲コンクールに入賞

そして昨年、友愛ドイツ歌曲コンクールに入賞、今年はホッター教授の指導を共に受けたバリトンの久岡昇氏とジョイントリサイタルを開いた。ドイツ歌曲の中でも好きな作曲家はブラームス、ヴォルフ、アール・シュトラウスなど。歌い手と曲の間の一体感が魅力だともいう。

もちろん声を出さない日はないという毎日。「声を出すにもその日のコンディションに合わせて練習することが大切」。中学三年生から高校生までの歌とピアノのレッスンも行っている。「これからも釧路を中心に活動していきたい」と意欲的だ。

アッパレ君

木崎征夫